

2024 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [大阪府立淀川清流高等学校] 担当教諭名 [竹村 颯真] (2年 12名)

相手国・地域 [パキスタン]

海外学校名 [Modernage Public School and Girls College Abbottabad] 担当教諭名 [Ammara Ahmed]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動(ユネスコ部)	アートマイル国際協働学習	27

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Liberation from oppression, preservation of freedom and rights
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	壁画では左から右に向かって不平等や抑圧から解放された絵となっています。その象徴が鎖です。鎖が途中で切れることが重要な意味を持ちます。また、お互いの国を象徴するものを壁画に組み込むことで、世界の繋がりと豊かさを表現しています。



■今回の取組の成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・壁画を描くという目標があるので、1年間の学びを関連させながら学習を進めていきやすかった。 ・期間が長く時間に余裕をもって活動できる為、途中テーマとは離れた自由なコミュニケーションの時間も取りながら、楽しんで学習できる場面があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの継続性という点においてクラブ活動の領域のみで活動するには教員の人手不足感がある。 ・費用がかかる取組であるため、学校として予算を出して頂かないと厳しい。 ・英語の学習到達度が低い状態での交流も可能だったが、距離感を感じる場面は多かった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
1年間を通して徐々にではあったが、相手国に関する興味関心が増え、積極的に交流できるようになった。日本とパキスタンの政策や環境を見比べ、共通する部分を見つけ、どのように社会が変われば暮らしやすくなるかということと自分たちができることを考えるようになった。	日本の現状や他国に伝えられる良さを知らないということを実感した。年間を通してアートマイルに関係なく、もっと日本の文化を体験させてあげたり、触れさせてあげたりしないといけないと感じた。1年間の学びを通じて来年度以降の国際交流の方向性も考えることができて良かった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 ～ 10月	活動した内容は随時 ・テーマの決定 ・自己紹介(ビデオメッセージ) ・SDG4、6に対しての最初の印象 ・SDG4、6に関する自国での取組	国際交流に向けてのワクワク感と英語で交流できるかの不安があった。自分たちが英語を話す必要があるので、まずは簡単な日本語での文章作成を心掛け、英語に振り仮名をふりつつ英語で読む練習をした。相手国の現状を知る中で自分たちが恵まれている部分と、足りていない部分が明確になり、学びの方向性が定まった。学びの途中で両国の行事等も共有することでその学校の雰囲気も伝わったので良かった。	部活動
共有 相手と意見交換	9月 ～ 11月	・教育施策、支援金について調べる ・守るべき権利(お金、自由、安全) ・行事の報告 (修学旅行、体育祭、クラブ活動)		部活動
融合 メッセージ作成	11月 12月	・お互いの国のいいところ(ビデオメッセージ) ・壁画の内容検討 ・壁画素案の共有	お互いの国のいいところを調べてから気づいたが、今回の交流では文章でのやり取りがほとんどで、相手の実態を掴みきれなかった。パキスタンのことを勉強することで、興味の引き出しが増え、距離感も近づいたように感じる。	部活動
創造 壁画制作	12月 1月	・壁画の制作	壁画の描きははじめが自分たちということもあり、「本当に相手の意図を汲み取れているか？」という不安はあったものの、いいパスが送れるようにアイデアを捻りながら壁画を制作した。	部活動
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	・壁画の受け取り、共有	完成された壁画を見て素直にすごいという気持ち。学びが全体的に遅れていたこともあり、振り返りは次年度へ持ち越し。始業式等で紹介する予定。	部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	5	相手国の食、観光地、スポーツなど幅広く調べ、「good point」な部分の原稿を作成した。翻訳機を使い、英語に直したあと、ビデオメッセージを使って相手国に送った。
主体的に考え行動する力	3	英語で届くメッセージを教員が日本語訳してから生徒に届け、また日本語で書いたメッセージを教員が英訳して届ける形をとっていた。そのため、相手国とのやりとりで主体的に行動する場面が少なかった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	相手国の現状を知り、自分たちの現状と比較する際、まず日本の現状について知らないのので、批判的に思考する段階まで至らなかった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	相手国の食、観光地、スポーツなど幅広く調べ、「good point」な部分の原稿を作成した。翻訳機を使い、英語に直したあと、ビデオメッセージを使って相手国に送った。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	相手国とやりとりをしながらデザインを考案した。壁画は生徒たちで協力し、制作した。その過程で細かい色や表情などを検討し、よりメッセージが伝わる作品に仕上げた。